

第 34 回クラシックを楽しむ会

2016 年 7 月 31 日 (日) 18:00～ (2 時間 53 分、休憩除く)

歌劇「愛の妙薬」(ドニゼッティ)

会場等： イタリア ミラノ・マルペンサ空港

2015 年 9 月 17 日

演奏： ミラノ・スカラ座管弦楽団と合唱団

指揮： ファビオ・ルイーダ

演出： グリシャ・アサガロフ

出演： エレオノーラ・ブラット アディーナ

ヴィットリオ・グリゴロ ネモリーノ

マッティア・オリヴィエーリ ベルコーレ

ミケーレ・ペルトウージ ドウルカマーラ

ビアンカ・トニョッキ ジャンネッタ

その他



インチキ薬売りドウルカマーラ(ミケーレ・ペルトウージ)登場!



ファビオ・ルイーダ(指揮)



ヴィットリオ・グリゴロ(ネモリーネ)



エレオノーラ・ブラット(アディーナ)

ものがたり

純朴な農民の若者ネモリーノは裕福な農家の娘アディーナに想いを寄せている。アディーナは美人で頭も良いがちょっと高慢。ある日、アディーナの前にベルコーレ軍曹が軍服姿で颯爽と現れ、ネモリーノは焦る・・・。

見せ場と名曲

第 2 幕の終わり、ネモリーノがアディーナの流した涙から自分が好かれていることを悟った喜びを歌うアリア「人知れぬ涙」はリリック・テノールのアリアの中で最高傑作といわれ人気が高い。このアリアでは地味な木管低音楽器の**ファゴット**がイントロから旋律を奏で、その音色はネモリーノの不安な気持ちを先取りしていると言える。

第 35 回クラシックを楽しむ会(予告)

タイトル： 歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」(マスカーニ)、歌劇「道化師」(レオンカヴァッロ)

8 月 21 日(日) 17 時 30 分開場、18 時上映開始

ヴェリズモ・オペラの二大傑作をセットで。主役はいずれも人気絶頂のヨナス・カウフマン。前半は舞台に誰もいなくなってから演奏される有名な「間奏曲」、後半はテノールの名曲「衣装をつけろ」。

9 月以降、「皇帝ティートの慈悲」、「ドン・ジョバンニ」、「トゥーランドット」など新演出の名作の他、これまで上映した人気演目の再演も予定。

あらすじ

【時と場所】

19世紀、スペイン・バスク地方の小さな村

【主要人物】

アディーナ 村一番の才媛で少々高慢な農場主（ソプラノ）
ネモリーノ 純朴な農民の青年、アディーナに想いを寄せている（テノール）
ベルコーレ 野心満々の守備隊の若い軍曹（バリトン）
ドゥルカマーラ 口の達者な旅のインチキ薬売り（バス）
ジャンネッタ 事情通の村娘、アディーナの友達（ソプラノ）
その他、村人達、守備隊の兵隊達など

【第1幕】アディーナの農場の前の広場と村の広場

ネモリーノはアディーナを見つめて「なんてきれいなんだろう」を歌うが、アディーナはすごい。アディーナは「トリスタンとイゾルデ」の本を村娘たちに読んで聞かせ、「飲めば恋が成就する愛の妙薬、そんなのあり得ないわね!」と大笑いしている。そこに村外れに宿営しているベルコーレ軍曹が一隊を率いて颯爽と登場し、美しいアディーナに目を止める。アディーナは一目惚れし、ネモリーノは焦る。

そこへインチキ薬売りドゥルカマーラ登場、巧みな口上で村人に薬を売り付ける。ネモリーノはドゥルカマーラに「イゾルデの使ったという妙薬」を求め、ドゥルカマーラは、安物ワインを「秘薬」として売りつける。大喜びのネモリーノとドゥルカマーラがコミカルな二重唱を歌う。

ネモリーノは「秘薬」を飲んで陽気になり、アディーナを無視。アディーナはネモリーノの態度を急変させたことに腹を立て、ベルコーレ軍曹の求婚に応じる。ベルコーレに進軍命令が出たため、急遽アディーナと婚礼を挙げることになる。鷹揚に構えていたネモリーノは慌てる。

【第2幕】アディーナの農場と広場

いざ結婚の誓約となるとアディーナは躊躇。事態を挽回しようとネモリーノはドゥルカマーラに更に秘薬を求めるが、金がないため恋敵ベルコーレ軍曹の部隊に入隊することにし、給料を前借りして秘薬を購入。ネモリーノは秘薬を飲み干して眠り込んでしまい、ベルコーレ軍曹はせせら笑う。

一方、ネモリーノが伯父の巨額の遺産を相続するという噂を聞いた村娘たちは、ネモリーノと結ばれて玉の輿を夢見る。ネモリーノは酔いから醒めて秘薬の効き目と勘違いして大喜び。ネモリーノが秘薬を手に入れる為に命も顧みず軍隊に入ったことをドゥルカマーラから聞かされたアディーナは思わず涙を流す。アディーナはネモリーノを恋しているのを悟り、ネモリーノの入隊契約書を買戻して愛を告白する。

補足 1. 時と場所について

本公演の演出は時と場所を19世紀のスペイン・バスク地方の小さな村から、現代イタリアのミラノ・マルペンサ空港に移している。

ミラノには空港が3つあり、マルペンサ空港はローマの”ダ・ヴィンチ国際空港”と並ぶ巨大な国際空港でミラノの北西50kmにある。ミラノ市街地に隣接したりナーテ空港もヨーロッパ近郊を結ぶ国際空港である。

補足 2. アディーナの本「トリスタンとイゾルデ」について

この本の物語は、ケルト系（セルティック）の説話が中世フランスで物語にまとめられ宮廷詩人たちによって各地に語り伝えられた悲恋物語である。叔父のマルク王とイゾルデ姫の政略結婚のため、騎士トリスタンがイゾルデをアイルランドからイギリス南部のコーンウォールに連れて行く途中、二人が誤って媚薬を飲む。この物語はアーサー王物語にも組み込まれている。

ドニゼッティの「愛の妙薬」は1832年に初演され、1843年にドレスデン宮廷楽長になったワーグナーも「愛の妙薬」を指揮していたと推測されている。この物語をもとにワーグナーが楽劇「トリスタンとイゾルデ」を完成させたのは1859年である。

出演者について

ファビオ・ルイーダ

1959 年生まれ、イタリア北部リグーリア州ジェノヴァ出身の指揮者。ヨーロッパ各地の名門歌劇場、交響楽団の音楽総監督、芸術監督を務め、現在メトロポリタン歌劇場の首席指揮者。なお、2010-2012 年には札幌のパシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）の芸術監督を務めた。

ヴィットリオ・グリゴーロ

1977 年イタリア中部トスカーナ州のアレッツォ生まれローマ育ちのテノール歌手。昨年 4 月初リサイタルで来日したとき夕刊紙に「パヴァロッティの再来」と紹介された。

エレオノーラ・ブラット

1982 年イタリア北部ロンバルディア州マントヴァ生まれ、新進気鋭の若手ソプラノ歌手。パヴァロッティに師事して 2006 年にデビュー。今秋 2016 年 10 月、リッカルド・ムーティ指揮ウィーン国立歌劇場日本公演「フィガロの結婚」では伯爵夫人役に抜擢されている。なお、2014 年ムーティ指揮ローマ歌劇場日本公演の「シモン・ボッカネグラ」では病気で降板したフリットリに代わってアメーリアを歌っている。

テノールの声質について

同じ声種の中での声の質による区分を声質という。声種テノールの声質は通常 4 つに分けられる。

テノーレ・レツジェーロ

最も軽い声のテノールで、ロッシーニなどにおいて超絶技巧が求められる声種。代表的な役柄は「セヴィリヤの理髪師」のアルマヴィーア伯爵。代表的な歌手はフローレスなど。

テノーレ・リリコ(リリック・テノール)

最も一般的なテノールの声種で、役柄も一番多い。代表的な役柄は「魔笛」のタミーノ、「愛の妙薬」のネモリーノ、「ボエーム」のロドルフォ、「椿姫」のアルフレード、「カルメン」のドン・ホセなど。代表的な歌手はパヴァロッティ、カレーラス、アラーニャなど。

テノーレ・スピント

輝かしく強靱な声種。通常、重い声と認識される歌手はスピントに分類される。ドラマティコとレパートリーを一部重複することが多い（特にイタリアオペラにおいて）。代表的な役柄は「トロヴァトーレ」のマンリーコ、「アイダ」のラダメス、「トスカ」のカヴァラドッシなど。代表的な歌手はドミンゴ、ジャコモニ、クーラ・カウフマンなど。

テノーレ・ドラマティコ

テノールの最重量級。その中で、ワーグナー等ドイツオペラの重い役を歌うものを特に**ヘルデンテノール**という。代表的な役柄は「オテロ」のオテロ、「道化師」のカニオ、ワーグナーのテノール役など。代表的な歌手は、イタリア・オペラではデルモナコなど、ヘルデンテノールではルネ・コロ、ヴィントガッセン、フォークトなど。

Nº 11. ROMANZA

(NEMORINO)

SCENA VIII.

Larghetto

Fg. *p*

A. *p*

Vni *ppizz.*

Vle *ppizz.*

Vo. *ppizz.*

Cb. *ppizz.*

Fg. *cresc.* *calando*

Cor. *a 2*

Mib *p*

A. *cresc.*

Vni

Vle

Vo.

Cb.